

## 平成21年度「市川海岸塩浜地区護岸検討委員会」 第1回勉強会の開催結果概要

1. 日 時 平成21年7月2日(木) 18時00分～20時00分
2. 場 所 葛南地域整備センター 大会議室
3. 参加者 21名(委員8名、一般2名、県4名、関係者3名、事務局4名)
4. 座 長 遠藤茂勝委員
5. 次 第 1) 護岸バリエーションの検討について  
2) その他

### 6. 概 要

#### 1) 護岸バリエーションの検討について

- ・ 護岸バリエーションに関して意見交換を行った。また、遠藤委員より親水性に配慮した護岸の他事例(写真)が紹介された。

#### [主な意見等]

- ・ 防護柵について、県の海岸管理部門より維持管理が難しいとの意見があったため、設置について再度検討することを事務局より説明した。
- ・ 海岸保全区域内で整備する(区域より海側は手をつけない)方向で検討することとなった。
- ・ 親水利用の高さ(AP+3.0m)設定の根拠は。  
HWL AP+2.1mに波の高さを考慮して決めた。
- ・ 階段、小段等を設置する区間について
  - ・ 案では50mとなっているがもっと長い方が良い。
  - ・ 利用者が広いと感じるためには400mトラックが入る程度の大きさが理想である。
  - ・ 広さにより利用者の滞在時間や人数が異なるため、それらの予測をたてて広さを考えるべきである。
- ・ 親水ゾーンが400m程度では短すぎるのではないか。
- ・ 親水ゾーンと保全ゾーンを一体的に考えることも必要ではないか。
- ・ 資料6頁の表中の「維持管理」項目の中で、利用者の誘導のしやすさも加えるべきである。
- ・ 天端の通路が平面的に曲線を描いていた方が景観的に良い。
- ・ 人がアクセスする場所は、人工物(ブロック等)を使用してもよいのではないか。(茜浜の例のように)
- ・ B案は背後地が基本断面の場合よりも高くなるデメリットがあり、A案の方がよい。
- ・ B案のほうが魅力がある。
- ・ AP+3.0mより下の部分は生物に配慮したバリエーションを考えていくべきである。
- ・ AP+3.0mより下の部分でカーブを描いたほうがよい。湾入部ができると沿岸

流や離岸流が生じ、生物の生息に都合がよい。また、景観上も好ましい。

- ・ 被覆石整備済区間の現状のように、石同士の間隔があいていると稚魚に適した環境であると考える。
- ・ 案にある木杭では強度的にもたないのではないかと。他の材料も検討し使ってみるべき。
- ・ 三番瀬は流れが弱いので、砂をためるほどの外力は期待できないことに留意が必要。
- ・ 維持管理の指標については、人を安全に誘導することも含めた方がよい。
- ・ 鳥の専門家にも意見を聞くべき。

[傍聴者からの意見]

- ・ バリエーションは、海岸保全区域内で考えてほしい。これ以上、海を狭めないでほしい。

2) その他

- ・ 次回護岸検討委員会を7月30日に開催する予定。